

地域福祉教育総合支援システム 特集

あなたを支える

地域ごとに関係機関との協働・連携・調整・相談・ニーズ把握・情報を共有することで、大きな問題になる前に未然に防ぐことができるかもしれません。これからも地域全体であなたを支えていきます。

地域づくり

ひなち地域ゆめづくり委員会 会長

中野 修一さん



隣近所や地域で支え合うことは、まちづくりの原点です。



比奈知地域が開設した「なごみ」は地域の憩いの場。幼児～高齢者が交流でき、カフェスペースもある。

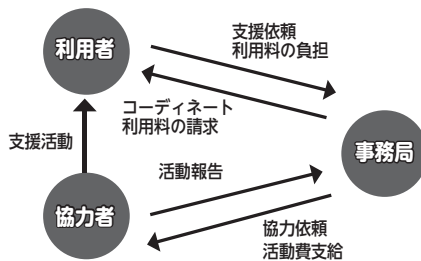
地域ビジョンの一つに掲げていた地域の支え合い・交流の場としての施設「なごみ」を今年8月にオープンさせることができました。子どもから高齢者まで、いつでもだれでも利用でき、人が集まる、人が人を呼ぶそんな施設を目指しています。日ごろから、暮らしやすいまちにするためには、女性と若い人の力が必要だと思っています。女性は、地域のことをよく知っている。ご近所の小さな変化を感じ「様子がおかしい」というときには、私や民生委員などにも連絡してくれます。若い人は、地域の活性化の担い手、継続したまちづくりを進めるためにも大事な存在です。子育て世帯を応援し、つながりを持ちたいですね。また防災でも女性

と若者がポイントになります。今年の防災訓練では、避難所開設や安否確認、児童引き渡しなど地域と小学校とで一緒に実施することにしました。学校や保護者とはイベントなどでも連携していきたいです。隣近所や地域は、顔の見える関係です。地域で支え合うということはまちづくりの原点だと思います。

こんなことやってるよ

困りごとを地域で解決 地域支え合い事業

「電球が切れたけど交換できない」「庭木の剪定が大変で…」高齢になると日常生活のちょっとしたことが困難になります。住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、住民同士が有償ボランティアとして支え合う仕組みが、市内7カ所の地域で実践されています。駅やスーパーへの移動支援を行っている地域もあります。



民生委員 児童委員

会話から地域を元気に、つながりを大切にしていきたい。

錦生・赤目地区民生委員会長 藤村 純子さん



私の担当する地区は、2000世帯あまりで、そのうちひとり暮らしの高齢者など見守りが必要な人は、約30人います。「次のサロンも来てな」「振り込め詐欺がはやってるから気を付けてな」「最近具合はどう？」そんな会話から2時間くらい話し込んでしまうこともあります。顔を合わせて話すことは大事です。最後は「何かあったら電話ちょうだいね」とすぐに駆けつけることを伝えています。高齢者が多い地域ですので、民生委員は、どうしても高齢者への見守り活動が中心になります。しかし最近では、主任児童委員とともに赤ちゃんが生まれたお宅を訪問しています。新しいお母さんに顔を覚えてもらって、声を掛けてもらうこともあります。地域の子どもの成長を感じることが出来るのは、うれしいことです。若い世代や子どもたちも応援したいですね。他の地域の活動と比べると、まだまだだと思います。私一人ではできないですし、皆さんに協力をしていただいています。多くの人のつながりの輪が大切です。これからも地域と寄り添ってまいります。

こんなことやってるよ

主任児童委員による「こんにちは。赤ちゃん訪問」

地域の主任児童委員は、生後、2か月までの赤ちゃんの家を1軒ずつ訪問しています。「分からないことは何でも相談してね。」と声を掛けながら、子育ての制度や予防接種のこと、地域で開催される広場や相談先などを紹介しています。



こんなことやってるよ

子育てママを手助け 乳幼児の預かり「みはたすくすく」

美旗地域の民生委員を中心とした地域のボランティアの皆さんが、一時的に乳幼児を預かる子育て支援の取り組みを10月から本格的にスタートさせました。子育て中のお母さんに自分の時間やゆとりを持ってもらおうと支援する取り組みです。



名張だからできる画期的な仕組みです

名張市が進める地域福祉教育総合支援システムは、まちの保健室や地域づくり組織が機能している名張だからできるもので、福祉行政として極めて画期的な取り組みだと思います。

日本の福祉行政は、高齢者・子ども・障害者という対象別に考え、そこからさらに高齢者の認知症や介護対策、子どもの保育や虐待対策、障害者の施設や雇用対策など、専門分野や制度も分かれていて、

それぞれで解決策を探します。

また、何か起きてから対応するのが基本で、要介護の判定が出たから介護保険で対応する。児童虐待が発生したから児童相談所で対応するという感じです。子どもの貧困問題などは、原因の一つではありません。浪費癖があるからとか、仕事に就けないだけでなく、母親が精神障害があるとかDVを受けている、虐待など複合的な要因があります。

福祉行政の現状から見ても、名張市のこのシステムは、家族・世帯に焦点を当てて、ワンストップで解決していこうとする仕組みになっています。未然にその危機を防止するための対策が取れるという点でも大いに期待したいです。

児童相談所、警察など県の関係機関が協力できるように、最大限やっています。

知事と市長の1対1対談

連携を強化

市では、総合計画に掲げる「福祉の理想郷」の集大成として「地域福祉教育総合支援システム」の構築に向けた体制整備を進めています。

さまざまな福祉相談に対し、ワンストップで対応すると同時に行政や関係機関とのネットワークを強化し、地域の課題解決にあたる包括的な支援体制の仕組みです。また、教育や子育てについても学校だけではなく、市民総ぐるみで

やるべきものだと思います。システムの中に「教育」を入れました。

私は、近接補完の原則を貫いてまちづくりを進めてきました。まず個人でできることはやる(自助)できないことは隣近所で助け合う(互助)、それでもできない場合は自治会や地域で助け合う(共助)、それでもかなわない場合は、市民の皆さんと市とが協働でやる。まだ無理な場合は、県や国も交えて一緒にやりますよというもので

8月に子どもセンターで行われた市長と知事による「1対1対談」では、「まちじゅう元気」をテーマに話し合いが進められました。

す。名張は、住民熟度が高まり、まちづくりの土台ができ、皆さんと信頼関係が生まれて課題解決ができるようになりました。人口減少や高齢化が進む中、社会保障制度をいかに持続あるものにしていくか考えていかなければなりません。やれることは皆さんと知恵を出し合い、協力し合って発展させていと思っています。

福祉や教育を総ぐるみで知恵を出し合う



名張市長 亀井 利克



三重県知事 鈴木 英敬

名張市地域包括ライフシステム 名張市地域福祉教育総合支援システムキックオフ大会 ～教福連携名張サミット～

入場無料
申込不要

〒63-7833 地域包括支援センター

日時 11月13日(日) 午後2時～

場所 アドバンスコープADSホール

住み慣れた地域で安心して暮らすために、妊娠・出産・子育て世代から高齢者世代まで、人生それぞれのステージに対応し、地域と多くの関係機関による福祉や子育て、教育などの包括的支援体制の必要性を考えます。

コメンテーター

- 鈴木 英敬 三重県知事
- 定塚 由美子さん (厚生労働省 社会・援護局長)
- 西井 知紀さん (文部科学省生涯学習政策局社会教育課長)
- 小引 福夫さん (地域づくり代表者会議会長)
- 亀井 利克 名張市長

第46回名張市社会福祉大会 午後1時～2時
社会福祉の発展に功績のあった団体や個人を表彰します
〒41-0780 社会福祉協議会 総務課

コーディネーター

永田 祐さん (同志社大学社会学部准教授)